

令和7年度

第2回

教育課程編成委員会報告書

於：令和8年2月

学校法人長野県理容美容学園

長野理容美容専門学校

第1回教育課程編成委員会 報告書

日時：令和8年2月24日(火)14:00～

場所：長野理容美容専門学校 校長室

出席者：SORA 伊藤先生 スタジオ エーワン 小出先生

松林校長・柏原教務主任・中澤主任

1、校長挨拶

お忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。本日も自己評価委員会、学校関係者委員会の報告をさせていただきますのでご意見をお願いいたします。令和8年度より学校法が改定となり、時間時数制から単位制への表記が必須となりました。特にカリキュラムについては重要課題です。毎回、先生方におかれましては、様々な貴重なご意見頂戴し、大変ありがたく、今日も忌憚ないご意見よろしくお願いいたします。

2、自己評価委員会、学校関係者委員会報告

基準1から基準10までについてそれぞれの委員からのご意見を報告

- ・評価基準について検討していく必要がある
- ・教育理念や重点も気雨氷は関わる方すべてに共有していくべきこと
- ・教員補充や新人職員の育成及び、教員の指導力向上について引き続き強化していくべき項目である
- ・学生の現状と就職について
- ・小中学校からの職場体験と学生募集について

伊藤委員：基準：2について教員の充足は重要で、技術はもちろんのこと、幅広い能力が求められる教員。学生指導もそうだが、新人教育も受け取る側が過剰に反応する場合もあり、伝え方が難しくなっている。基準：3はトレンド感を持ち、先生方が取り入れようと努力しているのが窺える。サロンもぜひ活用してってもらいたい。基準：4 就職活動の動きが遅い学生がいるということは、実習の機会を増やすなどどうだろうか。サロンでは強調することが重要。協力し合える人間関係ができるといい。コンテストもよい刺激になる。基準：5の学校関係者委員の意見である学校主体のイベントはとても良いと思う。また、コンテストの審査の協力依頼をサロンにするのもよいと思う。基準：6環境はとても良い。基準：7広報は大事。インスタなどもやみくもにやるより、プロに入ってもらい発信したほうが良い。

小出委員：基準：2 全美の情報誌による参考資料あり。美容業界も離職率に注視している。基準：3 講師を含めて密に連絡取りあうことはとても良い。基準：4 就職が決まっていない学生が気になる。自分のやりたいこととして入学したと思う。様々な資格や体験により、知識や技術を身に付け、自信につけて就職に繋げてほしい。前半に心配した休退学者が落ち着いてよかった。基準：5 外部からのコンテスト審査員は刺激になってよい。小中学校

の職場体験は将来の職業選びに繋がりがやすい。組合でも率先して関わっている。

3、重点目標について

- ・重点目標と振り返り
- ・令和8年度の重点目標

小出委員：接客の基本は当たり前のことだが、根気強く伝えていってほしい。分かってくれる学生は必ずいる。健康でなければ集中力できない。体力勝負の仕事。学生の時にしかできない1日1日学ぶことをコツコツ続けることで就職に繋がり、サロンに入ってから給料に繋がる。素直で感謝できるとそこに繋がりがやすい。また TODO リストなどで事前準備と振り返りをしていくとよいのではないか。自己満足であっても伸びていく。学ぶ、修得する、PR するなど行動力のある人は伸びる速さも違う。職員同士のねぎらいながら進めていってほしい。

伊藤委員：重点目標すごく大事。技術も大事だが、支持される人はこういう人。外部講師にも伝えて、一緒に伝えていけたらいいと思う。マインドマップも活用し、将来の技術者像が見えて目的と目標が明確になる。行動力があるかないかはいい美容師になれるかなれないかに大きく関わる。先生たちの雰囲気や学生は敏感に感じ取る。ねぎらい連携しあって風通しよく進めてほしい。ここに上がる心配な学生はごく一部だと思う。志を持つ学生が増えて全体の環境が良くなり交じり合っていけるといい。

4、カリキュラムについて

- ・選択必須科目の授業内容の確認

小出委員：高齢化や体の不自由な方へのサービスは今後増えていく。社会貢献にもつながっている。ヘッドスパは唯一リラックスできる気持ちのよい施術。

伊藤委員：全体を通して実践的なカリキュラムになっている。メイク検定がやりたいメイクではないということと、検定料が高いということは検討していかなければいけない。シャンプー、ヘッドスパは即戦力に繋がる。カラーもワンメイクできればすぐに入客できる。

5、職業実践について

- ・カット、カラー、ネイル、メイク、コミュニケーションの5科目で実施。
ネイル、メイクをパーマ、シャンプーなどを含めて検討していきたい

伊藤委員：AI でカウンセリングする時代になってきているが、人間力やコミュニケーション力は必要。メイクやネイルは限られた人。頻度からするとシャンプーヘッドスパが多い。

校長：高校生にはヘアメイクの職業が人気。需要からすると狭き門の仕事であることを伝えていますが、メイクの仕事をした学生が増えている。

小出委員：コミュニケーションは大事。予約も、カウンセリングも AI を利用している。最終的には人間力やコミュニケーションが必要。

6、学生の様子、及び業界から

中澤主任：1学年美容科は前半、休退学者が出てしまったが、今のところ安定している。7日超えの面談の学生もいるが、2年生に向けてやる気のある学生に引っ張って行ってほしい。2年生美容科は国家試験の筆記試験に向けて早めに模擬試験に取り掛かり52回実施予定。例年より人間関係が難しく、低位生も多いが、頑張った実技試験を自信にして筆記試験に繋げて行ってほしい。

伊藤委員：より専門的に特化したサロンが増えてきている。全体的な給料の上昇、物価高で値上げせざるを得ない。専門的分野で金額を上げていく。スタッフのどこに合わせていくかが重要。AIが進めば進むほど使いこなし、コミュニケーションをとって落とし込める人に需要が高まっている。人間関係が難しいというのは結構弱点になる。

小出委員：全国の美容所が274,070軒で昨年より4,200軒増えている。美容師は579,768名で8,000人増。1店舗2.12名で首都圏を除くと、平均を下回る。美容師の合格者は横ばいで、20年前より減少している。どの業種も人が不足しているため、小中学校のかなり職場体験に参加してきている。美容組合の4組合で養成施設と取り組んでいる。賃上げは諸外国に比べて低く、賃金や待遇は一層激化していく。経営者側が苦しい立場。

校長：専各連から出前授業や職業体験の依頼が多い。引き続き、参加していき、サロン様に協力していただけるとありがたい。

次回令和8年8月4日(火)14:00～